

基本理念：ふるさと福井への誇りと愛着を持ち、自ら学び考え行動する力を育む 教育県・福井

- ・子どもたち一人ひとりがふるさと福井への誇りや愛着を持ちながら、福井に世界に活躍することができるよう、それぞれの得意分野を伸ばし、夢や希望を実現する突破力を身に付けることができる教育を推進する。

【対象期間：平成27～31年度（5年間）】

＜教育振興基本計画との関係＞

- ・知事は教育委員会と協議・調整して本県教育の総合的な目標、根本方針である「教育に関する大綱」を策定
- ・大綱に基づき、教育委員会は具体的な施策のアクションプランとして「教育振興基本計画」を策定・実行

この基本理念に沿って、今後5年間の教育施策について10項目の基本的な方針を定めて施策を推進

- **方針1：ふるさと福井に誇りと愛着を持ち将来の福井を考える人を育てる「ふくい創生教育」の推進**
- **方針2：夢や希望を実現する「突破力」を身に付ける教育の推進**
- **方針3：社会への参加を進め、高度な専門知識・技能を身に付ける教育の推進**
- **方針4：グローバルな社会で活躍するための「使える」外国語教育の推進**
- **方針5：福井の教育を支える教員の指導力をさらに向上**
- **方針6：安全・安心でみんなが楽しく学ぶ学校づくりの推進**
- **方針7：児童・生徒数の減少や社会の変化に対応した学校・学科の整備**
- **方針8：生涯にわたる学びを地域活動につなげる仕組みづくりの推進**
- **方針9：地域への愛着を深める芸術・文化活動や創作活動の充実**
- **方針10：「福井しあわせ元気国体」の優勝を目指した競技力向上と国体の成果を活かした県民スポーツの振興**

方針1：ふるさと福井に誇りと愛着を持ち将来の福井を考える人を育てる

「ふくい創生教育」の推進

＜主な施策＞

(1) 子どもたちが夢や目標を明確にしてふるさと福井の将来を考える教育の推進

- 副教材「ふるさとの先人100人」を作成し、全高校の授業で活用
各高校の学校図書館に先人関連図書を配置し、併せて県立図書館の図書を紹介
ふるさとの先人に関する中学生スピーチ大会を開催
- 本県ゆかりの企業経営者など「ふるさと先生」による授業を全高校に拡充
- こども歴史文化館をリニューアルして歴史的資料などの展示を充実
全国の博物館等と連携した実物展示や参加体験型の企画を充実
教科書と関連する展示を充実し、学校利用を促進
- 高校生が福井と都会の生活を比較した副教材を活用して自らのライフプランを作成するライフプラン学習を実施
中学生向けに福井の生活の魅力を知る独自教材を作成し、「私の夢カルテ」と併せて活用
- 小・中学校における職場見学、職場体験の分野・業種を拡充
地元企業で働く先輩との交流機会を充実
- 普通科系高校生が地域の職場や企業を知る機会を増加

(2) 人とのつながりを重視し、お互いを尊重する心を育てる教育の充実

- 中学校の道徳授業において「ふるさとの先人100人」を活用して先人の生き方から社会への貢献や命の大切さを学ぶ学習を実施
福井県版「心のノート」など独自教材を活用した道徳授業を実施
郷土の文化や先人を取り上げた保護者参加型の道徳学習を中学校に拡充
- 人権教育研修を全校長を対象に実施するとともに、教職員向けのマニュアルに新たな課題を踏まえた実践事例を追加
- 「福井型コミュニティ・スクール」に地域人材のコーディネート体制を整備し、地域の中で児童・生徒が企画・提案する体験学習を充実
児童・生徒の企画提案型の体験学習を促進する実践事例集を作成・活用
- 里山里海湖研究所と連携した地域特性を活かした自然体験プログラムを策定
理科教員と里山里海湖研究所との共同研究成果等を活用
小・中学校において伝統文化の体験学習や地域の祭り等への参加を促進

方針2：夢や希望を実現する「突破力」を身に付ける教育の推進

＜主な施策＞

(1) より高い目標の実現に向けて子どもたちの学力を伸ばす教育の充実

- 小学校5年生・6年生の一部科目に教科担任制を導入
中学校教員による小学校への支援や退職教員による理科実験支援を拡充
- 「ふくい理数グランプリ」小学生部門を新設
中学生、高校生を対象とした大学教員等による発展的な学習機会を拡充
- 中学3年生の英語や数学の授業を学校・学級の規模に応じて習熟度別を実施
- 速読や熟読など課題を設定した読書活動を促進
親子で同じ本を読んで感想を交流する親子読書を拡充
- 百人一首や本県ゆかりの古典などを活用した独自教材を作成し、小・中学校で活用
- 福井地区・二州地区で探究型学習を中心とした新たな学科の設置などを検討
- 高校3年生を対象とした志望大学別の入試直前対策を拡充
難関大学を目指す高校1年生、2年生向けに英語や数学の土曜特別講座を開設
- 既卒生向けの学習室を設置して退職教員による学習指導および進学支援を実施

(2) 知識の活用、意見発表など自ら考え行動する力を身に付ける教育の推進

- 県独自の学力調査において、総合的な思考力を問うチャレンジ問題を充実
- モデル校を指定して課題解決型の学習手法を開発し、他高校においても活用
- 県立図書館による学校図書館向けの図書貸出サービスを新設
- 学習効果の高い分野におけるタブレット端末等の導入を促進
教育研究所のスマート教育研究体制を強化して活用方法を研究、教材を開発
- 県立高校入試において、高校ごとの選択問題を導入し、思考力や知識活用力を評価する記述、論述型の問題を拡充
外部検定試験を活用するなど英語スピーキングテストを実施

(3) 「福井型18年教育」の基盤となる幼児教育の充実

- 全小学校区においてカリキュラムを活用した保幼小接続を実践
- 新たに3～4歳児の幼児教育カリキュラムを策定し、5歳児から小学校1年生までの保幼小接続カリキュラムと統合・実践
- 市町幼児教育アドバイザーを育成、配置
県内大学と連携した保育者を対象とした専門研修を導入
- 市町による放課後子どもクラブの施設整備および運営を支援
希望する小学6年生までの全児童の受け入れ体制を整備

方針3：社会への参加を進め、高度な専門知識・技能を身に付ける教育の推進

<主な施策>

(1) 社会的な自立を促進する教育の充実

- 選挙権年齢引き下げに対応し、高校において副教材を活用した授業を実施
高校生県議会への参加や模擬投票の実施など政治や選挙への関心を喚起
選挙管理委員会と連携した選挙制度等に関する学習を充実
高校のすべての教員を対象に主権者教育研修を実施
- 教育研究所において新聞記事などを活用した時事問題の学習用資料を作成し、中学校、高校における議論型の授業に活用
生徒向けの講座を設けて「中学生郷土新聞コンクール」を充実
- 専門機関との連携を強化し、高校における消費者教育、法教育、租税教育等の講演機会を拡充
- 高校において生徒会が地域貢献活動の情報を収集・周知し、参加を促進する仕組みを整備・支援
ボランティア活動実績をもとにした表彰制度を創設

(2) 高度な技術・技能、専門的知識が身に付けられる教育の充実

- 高校生の資格取得を促進する福井フューチャーマイスター制度を活用し、資格受験費用や資格試験に向けた学習を支援
- 週1日の企業実習（デュアルシステム）を新設し、モデル校を指定して導入
長期企業実習の受け入れ先企業分野・業種を拡充
- 各農業高校の特性を活かして新しい高度化した園芸の生産学習を充実
6次産業化に対応する商品企画や加工実習、販売など流通や経営の学習を拡充
- 本県独自の観光授業において、県内外で活躍する観光の専門家の授業を拡充
市町などと連携したフィールドワークを拡充して地域の魅力を発信
国内地理検定など生徒の観光専門資格取得を支援
- 職業系高校・定時制高校に配置した産業人材コーディネーターの機能を拡充
就職のマッチングに加え、長期企業実習先の開拓や早期離職対策などを実施

方針4：グローバルな社会で活躍するための「使える」外国語教育の推進

<主な施策>

(1) 小学校英語教科化への先行対応による小学校英語教育の推進

- 小学校における英語教科化を国に先行して実施
小学5年生、6年生に教科としての「英語」を段階的に導入
中学校では補助教材を作成して小学校英語授業の成果を活用
- 英語教科化先行実施までに各小学校英語教育の中核となる教員を養成するため、外国語大学と連携した研修を実施
担任教諭・全教員を対象に英語研修を強化するとともに自主的な指導力向上を促進
- 中学校教員との交流や中学校ALTによる小学校訪問を拡充
退職教員による授業支援や小学校への人材派遣を実施
- 小学生向けの英語図書等を各学校に整備
英語表示や英語の歌、校内放送を活用して定期的に英語に触れる機会を増加
- 小学校低学年生の保護者向けの講座を新設し、家庭向け英会話集などを作成・配付

(2) 「話す」「書く」「聞く」「読む」力を着実に身に付ける中学・高校英語教育の推進

- 中学校、高校のオールイングリッシュ授業を拡充
授業名人による実践事例を映像化して研修に活用
- 中学校ALTを増員するとともにALT向けの研修を充実
昼休みや放課後等に生徒とALTが交流する時間を拡充
- 中学生、高校生に対する英検やGTEC等の受検を支援
- ICT機器を用いた海外姉妹校との英会話機会を拡充
中学生が外国人に対してふるさとの魅力を英語で伝える機会を拡充
- 小学校、中学校、高校教員の外部検定受検を支援

(3) 大学や企業と連携した中国語教育の推進

- 中国語・中国経済の県内大学の出前授業や企業等で活躍する人の講演会を拡充
- 県外大学が主催する中国語研修等への中国語教員の参加を支援

方針5：福井の教育を支える教員の指導力をさらに向上

<主な施策>

(1) 教育研究所を移転して機能・体制を強化

- 新たな教育研究所に「先端教育研究センター」を設置
県内外の研究者と連携して大学入試制度改革や課題解決型学習などに先端研究の知見や手法を導入
大学と連携した管理職研修など段階ごとの教員研修を充実
- 授業名人の授業映像を活用した訪問・通信型研修を充実するとともに教育研究所に「サイエンスラボ」を設置して高度な理科実験の研修映像を配信
- 教育研究所と各学校等をつないだ双方向型通信研修を導入
- 教育研究所における教育関連図書、論文、雑誌などの資料収集を強化し、各学校および教員を支援
- 教育研究所に福井の教育発信の拠点として「ふくい教育博物館」を開設
福井ゆかりの教育者や学力・体力トップクラスの福井独自の取り組みを紹介
- 世界授業研究学会との交流や海外教育視察の受け入れを促進

(2) 新たな課題に対応した教員の採用や創意工夫を活かした授業の推進

- 公立学校教員採用選考試験において、すべての校種、教科において英語資格を加点
- 教員の自主的な教育研究活動に対する支援制度を充実
教員の自主研究等の成果を発信し、各学校における実践を促進
- 高い進学実績を持つ学校や特色ある分野の大学、企業等に教員を派遣し、成果を活用

(3) 学校マネジメントの向上と専門性を持つ人材の活用を推進

- 校長のリーダーシップによる教員の指導力向上、学校の魅力向上、危機管理を推進
県外等から実践者を招いた研修機会の充実や質の高い学校運営事例の提供など教育研究所による情報提供を拡充
- 教員の勤務実態把握アンケートを実施して勤務実態の把握や業務改善を徹底
部活動、校務や事務の合理化、ICT機器の活用、外部人材の導入を実践
- 退職教員による若手教員への指導・相談や小学校外国語活動、中学校、高校の補習指導など学習支援を拡充
- 部活動の指導助言を行う部活動講師の導入を検討

方針6：安全・安心でみんなが楽しく学ぶ学校づくりの推進

<主な施策>

(1) いじめや不登校をなくす教育相談・生徒指導体制の充実

- 自己チェックや保護者に対するアンケートなど、いじめの未然防止を徹底
複数の教員によるいじめ対応サポート班を組織してチームでの早期対応を実施
- 校種間の体験入学や情報共有を進めて不登校の未然防止を徹底
一定の欠席日数で個別支援を開始し、教員によるチームで不登校の長期化を防止
- 教育研究所と関係機関の教育相談ネットワークを強化し、教育相談体制を充実
教育研究所にスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置
スクールカウンセラーの配置を進め、学校の相談体制を強化
- 生徒会がインターネットの適正利用に関するルールを作成し、推進運動を展開
ネット利用の危険性や対応策をまとめた「スマート利用ガイド」を作成・配布
- 児童・生徒向けの薬物乱用防止教室を拡充し、指導を徹底

(2) 個々のニーズに合わせた特別支援教育の推進

- 必要なすべての児童に教育支援計画を策定し、校種間の引継ぎを徹底
- 障害の特性に応じた機器や補助具の導入を拡充
ICT機器を活用した学習障害児に対する支援を開始
- 特別支援学校と小・中学校との交流、共同学習を促進
小学校、中学校の教員を対象としたインクルーシブ教育研修を実施
- 特別支援学校の市町や地域団体と連携した販売、展示の機会を拡充
- 特別支援学校生徒の職場実習や職業教育に協力する就労サポーター企業制度を新設
一般就労を目指す生徒の職場実習や就労先開拓を行う学校ジョブコーチを拡充

(3) 目と歯の健康増進や給食による食育など健康教育の推進

- 生活習慣の定着と小学校における目のリフレッシュタイムを徹底
正しい歯みがき教室の実施や家庭と学校が連携した歯みがき習慣の定着を促進
- 地場産食材を利用した和食給食や新たな給食献立の開発を促進
食物アレルギーを持つ子どもたち一人ひとりに合わせた対応を徹底

(4) 自らの命を守る防災教育の推進

- 通学路交通安全プログラムに基づく交通安全対策を徹底
道路管理者や警察と連携して、ゾーン30や自転車安心通行帯の整備を促進
- 防災訓練や原子力災害避難訓練を実施し、情報伝達訓練や引渡し訓練を充実
学校防災アドバイザーを各学校に派遣して防災教育を実施

方針7：児童・生徒数の減少や社会の変化に対応した学校・学科の整備

方針8：生涯にわたる学びを地域活動につなげる仕組みづくりの推進

<主な施策>

(1) 学校再編と学科の見直しの推進

- 県立高校再編整備計画に基づく全県的な県立高校の再編を推進
再編検討委員会を設置して地区別再編実施計画を策定
- 夜間定時制高校を原則として昼間に移行、分校を原則として廃止
- 定時制高校に大学進学のための発展的な学習を行う選択科目を新設
企業実習や職業系高校での実習を組み込んだ選択科目を新設
- 統合予定の小・中学校に対する教職員の増配置を拡充
遠距離通学を行う児童生徒の通学のためのスクールバス購入費を支援
廃校舎等の利活用計画の策定と施設整備を支援
- 小規模校が他の学校と合同授業を行うためのシステム整備を支援

(2) 誰もが楽しく学ぶ安全で快適な学校環境の整備

- 教育研究所、中学校や高校等にテレビ会議システムを整備し、遠隔授業や双方向型通信研修に活用
- 県立学校にW i - F i 環境を整備してタブレット等を活用したスマート教育を推進
- 校務支援システムを導入して、教員の負担軽減と情報共有を推進
- 老朽化した学校施設を対象に大規模改修を実施して長寿命化を推進

(3) 私立学校の魅力アップに対する支援の充実

- 私立高校に対する教育改革、学校ブランド向上のための支援を実施
大学合格実績や文化、スポーツの成果に応じた支援や団体競技の全国優勝実績に対する加算を拡充
- 県外からの高校生受入れと県外生の地元就職や進学実績に応じた支援を強化
- 授業料減免補助や低中所得世帯の授業料の保護者負担等の低減
- 幼稚園、小学校、中学校、専修学校への全国トップクラスの支援を維持

<主な施策>

(1) 学びをコーディネートするシステムの構築と地域活動の促進

- 生涯学習センターに地域活動への参加につながる実践型講座を新設
市町、民間講座との役割分担や市町共催事業、大学開放講座を見直し
生涯学習ネットワークシステムによる県内講座情報の集約・提供機能を強化
- 家庭教育の支援などテーマを決めて社会教育団体の地域活動を促進
地域活動を通じて他団体との連携、協力を進めて組織を活性化
- 全ての青少年教育施設において体験プログラムを充実し、長期宿泊体験を促進
新たに開所する芦原青年の家において、地域資源を活用した新たな体験プログラムを充実
小・中学校における体験学習と連携して学校の団体利用を促進
- 青少年教育施設と里山里海湖研究所が連携した「福井ふるさと学びの森」における自然観察や里山体験などのプログラムを展開

(2) 子どもとともに親も学ぶ家庭教育の質の向上

- 親子で同じ本を読んで感想を交流する親子読書を拡充
小学生・中学生の保護者向けの家庭教育パンフレットを作成
幼稚園等において親子が触れ合う「童謡で伝える会」を実施
- 教育研究所が関係機関と構成する教育相談ネットワークの連携を強化し、教育相談体制を充実
- 「家庭教育相談・応援サイト」を活用した相談対応と情報発信を充実
- P T A と連携した保護者向け家庭教育研修を実施
テレビ放送等において保護者の家庭教育を支援する番組を提供
全ての保護者が参加する機会を活用した訪問型の家庭教育講座を実施

方針 9：地域への愛着を深める芸術・文化活動や創作活動の充実

<主な施策>

(1) 芸術・文化への関心・興味を高める本物の体験を中心とした文化教育の充実

- 弦楽クラブ、部活動の複数学校による合同練習会・演奏会を拡充
高校卒業後も弦楽を続けられるよう地域の演奏団体との連携を拡充
小中高校で日本画を活用した美術教育を実施し、高校を中心に研究推進校を拡充
- 高校の部活動等に芸術大学生等を派遣して実技指導を開始
- 県立音楽堂において、全ての小学5年生が参加するオーケストラ鑑賞を実施
中学校・小学校に県内外の演奏家を派遣して室内楽コンサートを実施

(2) 図書館を人と情報の交流拠点として地域活動・創作活動を支援

- 県立図書館の専門性を高め、課題解決、ガイダンス機能を強化
読書推進の拠点として市町図書館司書や学校司書などを対象とした研修を拡充
小学校入学時に図書館利用カードを作成するなど幼少期からの読書活動を促進
高校生によるビブリオバトルや小学生の親子図書館見学会など読書普及を充実
- 全国の文学館と連携して著名作家の直筆原稿等を活用した企画展示を充実
ふるさと福井ゆかりの貴重な文学資料を収集
直木賞、芥川賞受賞作家など専門家を講師とした「ふくい文学ゼミ」を実施
「文学カフェ」を定期的に開催して文学愛好者の交流を促進
- 「白川文字学の室」をリニューアルして展示内容を充実
立命館大学などとの共同研究や資料の相互利用を促進
白川文字学を活かした漢字教育講座を充実して漢字指導者を育成

(3) 県民の誇りや地域への愛着を深める文化財の指定・保存・活用の推進

- 歴史遺産を活用したまちづくりを進めている地域の建造物や史跡の指定を促進
嶺南に残る多様な民俗芸能、習俗等の調査を進め無形民俗文化財指定を促進
若狭地区に集積する平安期の仏像や浄土真宗ゆかりの仏像の指定を促進
- 一乗谷朝倉氏遺跡など地域の核となる文化財を集中的に整備
文化施設等が連携して幕末・明治維新などの貴重な資料を収集
- 文化財を活用した観光まちづくりや複数の文化財をまとめた群指定を促進
- 坂井市と連携して丸岡城の国宝指定を推進し、科学的年代測定などの調査を実施
越前和紙技術保存団体の重要無形文化財指定やユネスコ無形文化遺産への登録により
県内外に発信

方針 10：「福井しあわせ元気国体」の優勝を目指した競技力向上と国体の成果を活かした県民スポーツの振興

<主な施策>

(1) 実績のある指導者による選手の育成・強化とU I ターンによる有力選手の確保

- 重点強化校、強化指定校の部活動での強化を推進
指導者の派遣回数増加などにより強化指定選手の練習環境を充実、強化
- 県内企業とのマッチングにより有力選手の県内移住・帰住を促進
全国の強豪大学運動部と連携して有力選手を確保
所属実業団、大学の理解を得て、有力なふるさと選手の出場を確保
出身大学での強化練習、合宿などU I ターン選手の県内における練習環境を充実
- 国体の施設基準に合わせた県有競技施設の改修を実施
市町が行う競技施設の整備を対象に経費の一部を支援

(2) 東京オリンピック事前キャンプの誘致など地域のスポーツ振興の推進

- 市町によるオリンピック組織委員会「キャンプ候補地ガイド」掲載に協力
大使館等への要請活動を実施し、必要に応じ誘致候補国への直接要請活動を実施
キャンプ誘致決定後の市町の受け入れ準備および交流事業を支援
- 国体に出場した選手を指導者として次世代の選手を育成
各市町における開催協議の地元定着を促進して全国的な競技拠点を形成
福井国体までに整備した競技施設を活用して全国大会を誘致
- 国体後に「福井しあわせ元気国体」を記念したスポーツ祭を新設
総合型地域スポーツクラブと学校部活動との連携を促進

(3) 学校での運動等を通じた子どもたちの体力・運動能力の向上

- 体力・運動能力調査を実施し、得られた課題をもとに計画的な体力向上を推進
運動能力の高い児童、生徒のスポーツ適性を評価する小学生体力測定会を実施
- 小学校低学年の体育授業を対象とした外部指導者派遣校を拡充
国体出場選手などトップアスリートの体育授業への派遣を実施
全中学校において国体種目の体験教室を実施
- 専門的な指導ができる地域スポーツ指導者を活用して生徒の技能を向上
スポーツ医等を派遣し、安全な運動部活動指導体制を充実
中学生を対象とした高校部活動の体験会や合同練習会等を実施
休廃校の体育施設を地域の学校部活動に活用